

いないが、今後住民参加と公私協働についてより深く検討するとともに社会福祉における公私協働の有り様を追求すべきだと考えている。さらに老人保健福祉計画の住民参加の形態の類型化や論述についてはなお検討を要するといえる。今後、客観的な立証のための研究を重ねていくことにしたい。

#### 参考文献

- 1) 荒木昭次郎、「自治行政における市民参加の形態」、社会保障研究所編、『社会福祉における市民参加』、東京大学出版会、1996、p. 211
- 2) 松村直道、『地域福祉研究』、No. 22. 1994. pp. 9～10
- 3) 荒木昭次郎、前掲、p. 211
- 4) 大森彌、『自治行政と住民の「元気」』、良書普及会、1993、p. 218
- 5) D. ワルドォ、『行政学入門』、足立忠夫訳、勁草書店、1966、p. 15
- 6) 大森彌、前掲、p. 218
- 7) 荒木昭次郎、『参加と協働』、ぎょうせい、1990、p. 239
- 8) 荒木昭次郎「自治体の行政と市民—その協働システムをめぐって—」、ぎょうせい、年報行政研究23、『地方自治の動向』、1989、p. 80
- 9) 荒木昭次郎、前掲、p. 90
- 10) 荒木昭次郎、「自治行政にみる市民参加の発展形態」、社会保障研究編『社会福祉における市民参加』、東京大学出版会、1994、p. 211
- 11) 荒木昭次郎、前掲、p. 212～213
- 12) 荒木昭次郎、前掲、P. 221
- 13) 宮田和明、『現代日本社会福祉政策論』、ミネルヴァ書房、1996、p. 17
- 14) 宮島泉、「自律デモクラシーの理論」『政治思想の現在シリーズ⑨』、1996、p. 23 「ギリシア人がイセゴリアとよぶものは公的決定がなされる前に国家の主権議会で耳を傾けられる等しい権利である」
- 15) 新川達郎、「地域福祉政策における『公・共・私』の再編成、小笠原浩一編『地域空洞化時代における行政とボランティア』、1997、p. 89
- 16) 新川達郎、「住民参加から住民協働へ」、小笠原浩一編『地域空洞化時代における行政とボランティア』、1997、p. 115
- 17) 新川達郎、前掲、p. 116
- 18) 宮田和明、前掲、p. 14
- 19) 『国民生活白書』、平成5年
- 20) 新川達郎、前掲、p. 116
- 21) 真田是、『民間社会福祉論』、かもがわ出版、1996、p. 16
- 22) 山本啓、「高齢社会と福祉行政」、山本啓編『政治と行政のポイエシス』、未来社、1996、p. 369
- 23) 江藤俊昭、「ローカル・イニシアティブと地域政治」、山本啓編『政治と行政のポイエシス』、未来社、1996、p. 385
- 24) 山本啓、前掲、p. 306
- 25) 佐瀬美恵子、「福祉活動における主体形成過程」『地域福祉研究』、No. 25、1997、pp. 30
- 26) 古川孝順『社会福祉学序説』、有斐閣、1994、p. 305～306
- 27) 荒木昭次郎、『参加と協働』、ぎょうせい、1990、p. 4
- 28) 大友信勝、「住民参加と高齢者ほめん福祉計画」大友信勝編『検証高齢者保健福祉計画』、KTC中央出版、1994、p. 17
- 29) 牧里毎治、「市町村地域福祉計画と住民参加」古川孝順編『社会福祉供給システムのパラダイム転換』、誠信書房、1992、p. 35
- 30) 牧里毎治、前掲、p. 35
- 31) 大友信勝、『老人保健福祉計画をどうつくるか』、萌文社、1993、p. 21～22
- 32) 牧里毎治、前掲、p. 36
- 33) 佐瀬美恵子、前掲、pp. 32
- 34) 川村匡由、『地域福祉計画論序説』、中央法規、1993、p. 37～47
- 35) 高田真治、『社会福祉混成構造論』、海声社、1993、p. 81
- 36) 志村重太郎、『地方分権時代の創造的自治体改革』、ぎょうせい、1995、p. 155
- 37) 佐瀬美恵子、前掲、pp. 31
- 38) 大友信勝、前掲、p. 33
- 39) 久住剛、「市民活動・NPOと自治体」年報自治体学第10号、『自立する市民と自治体』、良書普及会、1997、p. 33
- 40) 永田幹夫、『改訂地域福祉組織論』、全国社会福祉協議会、1985、p. 56
- 41) 佐瀬美恵子、前掲、pp. 33
- 42) 久住剛、前掲、p. 34